東京新聞 TOKYO Web

【群馬】

傷付けずに聴き取って　子どもへの性的虐待

2014年11月18日

性的虐待を受けた疑いのある子どもから適切に事情を聴き取る手順「リフカー」。県内では初めてとなるリフカーの研修が、高崎市の高崎総合医療センターで開かれた。病院や学校、養護施設や児相などの職員約四十人が熱心に受講。本番を想定した演習では子どもを傷付けず、誘導尋問にもならないように聴く難しさも浮かんだ。（伊藤弘喜）

性的虐待を受けた疑いのある子どもの対応を学ぶ参加者たち＝高崎市で

リフカーは、性的虐待を受けた疑いのある子どもに直面した大人が、児相や警察に通告するため、必要最小限の情報を子どもから聴き取る手順。虐待の第一発見者となりうる一般市民に適切な初期対応を身に付けてもらおうと、米国の子ども支援団体「コーナーハウス」が約二十年前に開発した。「ファクツ（事実確認）」「レポーティング（通告）」など手順の頭文字をとっている。

研修は虐待防止に取り組む特定NPO法人MCサポートセンターみっくみえ（三重県桑名市）が十五日に開いた。みっくみえや、宮崎、新潟両県で同じように虐待防止に取り組むNPOの代表らが、聴き取りの項目や方法、注意点などを解説した。

子どもへの性的虐待は加害者が身近な人であることが多く、子どもが訴えることをためらったり、周囲に信じてもらえなかったりする場合があり、表面化しにくいとも言われる。子どもへの接し方は重要だ。

研修では、大人役と子ども役に分かれて演習したが、「つい誘導的に聴いてしまう」「遠慮しすぎて、うまく聴き取れなかった」など、さじ加減の難しさを挙げる感想が目立った。

子ども虐待防止みやざきの会（宮崎市）の広川真美さんは「初期対応では誰が何をしたかを聴くだけで十分。それ以上聴けば子どもを傷付けることもある」と注意を促した。参加した県内の保健師の女性は「聴きすぎないことも大事と分かった。検診などで気掛かりな事例があった時に生かしたい」と話した。

県内の児童相談所に二〇一三年度に寄せられた児童虐待の相談や通告計七百三十九件のうち、性的虐待は二十八件で全体の3％だった。

リフカーの問い合わせは、みっくみえ＝電0594（21）4935＝へ。

Copyright © The Chunichi Shimbun, All Rights Reserved.